

株式会社木村工務店

本社階層地域の
コミュニケーション
「まちのえんがわ」
交流会で情報交換の場として
親しまれています。

建築のプロとして、施主の意見を取り入れながら他とは違う新しい視点で提案することを心がけています。ハウスメーカーの下請けでは、それはできないこと。また、店舗や住宅の建築施工は、同業他社も多い。そこで差別化するのが、自然素材なんです。自然素材を使うことは手間がかかるし、面倒なのでどこもやりたがらない。だからこそ、やるんですわ。

一番大切にしているのは、そこに暮らす人、つまり施主が求めるものを形にすること。時には要望がいきすぎて、デザイン的に厳しくなることもあるんです。それでも最大限に施主の意見を取り入れ、ギリギリのところまでデザイン性をキープするのがプロの仕事だし、うちの持ち味や

と思います。

そして、こだわりを持つ人と仕事をする中で、あらためて街とのつながりの大切さに気付きました。建築は特に、街の一部を作るので、街と良い関係を持ってないとあかん、と。まず、オープンカンパニー、つまり地域に開かれた会社にならうと思い、2010年から「まちのえんがわ」をスタートさせました。

ものを売るだけの存在ではなく、街の人々とのコミュニケーションを大切に、人と人との関わりの中から新しい発想が生まれる。加えて、職人の手仕事のすばらしさも知ってほしいと、漆喰塗り体験、椅子づくり体験などワークショップを企画。情報発信の場としても活用しています。

暮らす人が満足できる家を作りだす
リビングの匠とコム



ワークショップで椅子作りとか
ご近所の方に「ものづくり」の楽しさを
体験していただいています

代表取締役社長 木村 貴一さん

我が社の
自慢

リフォームの匠として テレビに出演

テレビ朝日「大改造！劇的ビフォーアフター」で、リフォームの匠として2度も出演。同社が手がけた長屋のリフォーム実績に注目。住之江区の長屋リフォームをてがけた。

匠としての実績や
過去にとらわらず、
常に今の時代に合わせた
ことを知っているが、
ポリシーとか
道具は変わらないものを持ち
ながらも、時代とともに進化
することが必要。

神社もやるし、
店舗も、住宅もやる。
すべてすることで、
技術が磨かれていく。

大工さんが仕事を
しやすいように
加工場を又増しました。

自社で建材の加工も行う 暮らしやすさを追求した家づくり

木村工務店の歴史は、現社長の祖父が昭和12年に創業し、木造長屋の建築から始まる。戦後には、大阪市の受託で公立小学校の校舎を施工。昭和27年には、長居競技場の前身「長居競馬場」のメインスタンド工事も請け負った。さらに、昭和26年には大阪府で戦後初となる鉄筋コンクリート校舎建築を施工したのが、同社だ。

数多くの公共工事に携わってきたが、民間の一般住宅へとシフト。世の中が自然素材へと回帰する中、どこよりも早く木をはじめ自然素材をいかした住宅施工を押し出し、暮らしやすく快適な住宅を造りだす。それまでは、床や天井など場所に応じて加工されている建材を使用していたが、自然素材を追求すると人の手で加工しなければならない。そこで加工場を改修し、大工さんが加工できるスペースを確保。手で加工ができるようになり、特殊な形状の屋根もつくれたり、古材や曲がった木材など機械では製材にできないものを使用することも可能になった。その評判をきき、「アーバンリサーチ」「Doors Dining」など人気店舗が、同社に施工を依頼することも多い。

ステレオタイプのパッケージ型住宅では、現在の多様な生活スタイルにどうしても対応できない。木村工務店が大切にしているのは「お客様の個性を実現する設計」。たとえば収納一つとっても、まずはデザインよりも、お客様自身が使いやすいと思える場所につくることを優先する。住む人が自分たちらしい空間で、快適に暮らせるよう、プロとしてこれまで培ってきた技術と経験から、総合的にサポート。施工主とのコラボレーションによって生まれる同社の作品は、ほかにはない個性あふれる家ばかりだ。

株式会社木村工務店

<http://www.kimuko.net/>

〒544-0003 大阪市生野区小路東2-20-25

TEL 06-6751-4414 FAX 06-6751-4450

事業内容／各種建築工事の総合請負、企画・設計・
監理、建築資材の販売施工